



横須賀市医師会

第 34 号

令和 7 年 秋

# すこやか通信



## 横須賀市医師会の活動

### 骨の健康、気にしていますか？ ～ 骨密度検診のご案内 ～

横須賀市医師会 理事  
ザ・タワーくまさん整形外科 院長

黒 坂 望



年齢とともに骨は少しずつもろくなっていきます。骨がスカスカになる「骨粗しょう症」は、高齢者の骨折の大きな原因のひとつです。特に背骨や足の付け根の骨が折れると、寝たきりにつながることもあり、生活の質（QOL）を大きく下げることがあります。

骨粗しょう症は初めのうちは痛みなどの自覚症状がほとんどなく、知らないうちに進行するのが特徴です。「自分はまだ大丈夫」と思っている場合、実際には骨密度が低下している場合が少なくありません。そのため、症状が出る前に骨の状態をチェックすることがとても大切です。

そこでお勧めしたいのが「骨密度検診」です。

骨密度検査では、骨がどれくらい丈夫か、骨の中身がどれだけ詰まっているか（＝骨密度）を測定します。痛みもなく、短時間で受けられる検査です。

昨年度までは市の健診センターでのみ実施していましたが、今年度からは市内の約70か所の医療機関でも受診できるようになりました。より身近な場所で、より多くの方が受けやすくなっています。

検診の対象は、40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳・75歳の女性の方です。

対象の方には、6月末に市から「骨密度検診のご案内」のはがきが郵送されています。お手元に届いた方は、ぜひご確認ください。

早めに骨の状態を知っておくことで、生活習慣の見直しや治療に取り組むことができ、将来の骨折を予防することができます。

特に閉経後の女性や、ご家族に骨粗しょう症の方がいる方は、この機会にぜひ骨密度をチェックしましょう。

あなたの骨の健康を守る第一歩として、横須賀市の骨密度検診をぜひご利用ください。

## 肝臓疾患 (3)

横須賀市立総合医療センター 病院長補佐 池田 隆 明



### 忘れてはいけない「薬物性肝障害」

ウィルス性肝疾患などに比較して、注目度がやや低い「薬物性肝障害」ですが、肝機能障害を認めた際には常に念頭に置くべき重要な疾患です。記憶している方も多いと思いますが、平成13年頃に輸入ダイエットサプリメント（紆之素膠囊；せんのもとこのう）の摂取による死亡例を含む重篤な「薬物性肝障害」が各地で発生しました。原因として、有害な化学物質がこのサプリメントに含まれ、生体に悪影響を与えたことが指摘されています。私自身もウィルス性肝疾患で通院中の患者さんが、黄疸を伴う重篤な肝機能増悪で受診され、最終的に上記ダイエットサプリメントによる「薬物性肝障害」であることが判明した症例を経験しています。最近では、健康に対する意識の高まりから、自然食品、健康食品やサプリメントを摂取する方が増加し、その割合が成人の3～4割に上るとの報告があります。サプリメントなどによる「薬物性肝障害」の発症機序は、処方薬由来の肝障害と同様で、体質や併用薬剤との相互作用による場合がほとんどです。しかし、輸入ダイエットサプリメントで発生した事例のように、製品そのものが粗悪で、有害物質を含むなどにより発症する場合も皆無とは言えず注意が必要です。

「薬物性肝障害」には、ウィルス性肝障害などと異なり、確定診断できるような血液検査はありません。まずは「薬物性肝障害」以外の肝疾患（ウィルス性、アルコール性、自己免疫性、代謝性など）の除外が必要です。その上でさらに疑われる場合には、サプリメントなどを含めた薬物の服用時期と肝障害出現時期の詳細な解析を行い原因薬物の特定を行います。以上のように「薬物性肝障害」の診断は手間がかかります。さらに、治療で最も重要なのは、一刻も早い原因薬物の中止です。このように「薬物性肝障害」は診療を受ける側、そして診療する側にとっても負担の大きい疾患であると言えます。この問題を解決すべく、私自身も原因薬物の免疫学的特定法を研究した時期がありました。しかし、発症機序の複雑さから、補助的診断法に留まるとの成果に終わりました。以上のように、「薬物性肝障害」は一旦発症すると診断、治療に難渋する疾患です。摂取している薬物の種類が多くなればなるほど原因薬物の特定が困難になります。普段から、信頼性のある薬物の必要最小限の摂取・服用を心がけていただければと思います。

## 皮膚科 (2)

すずらん皮膚科クリニック 院長 松岡晃弘



### 帯状疱疹 2

前回に引き続き今回も帯状疱疹のお話になります。今回の内容は帯状疱疹の後遺症と予防接種についてです。

#### 「帯状疱疹の後遺症」

通常は治療開始後、1週間程度で水疱が痂皮（かさぶた）になり、痛みも消えていきます。しかし高齢者や治療開始が遅れた場合、皮膚症状が重症だった場合に帯状疱疹治療後も痛みが3か月以上にわたり持続してしまう「帯状疱疹後神経痛（PHN）」になってしまうことがあります。重症になると「刺すような痛み」や「焼けるような痛み」が数年続くこともあります。また、顔面の帯状疱疹の場合はまれに難聴や顔面神経麻痺をおこすこともあります。

#### 「帯状疱疹後神経痛（PHN）の治療」

PHNの治療は先に述べた非オピオイド系鎮痛薬、ビタミンB12内服に加え、神経障害性疼痛緩和薬内服、鎮痛補助薬内服、漢方薬内服の組み合わせで治療を行います。重症の場合はオピオイド鎮痛薬内服やペインクリニックでの神経ブロック療法が必要になることもあります。

#### 「帯状疱疹予防接種について」

50歳以上で帯状疱疹を発症した人の約2割がPHNになるといわれます。50歳以上であれば辛い思いをする前に予防接種を行うという選択肢があります。

予防接種には生ワクチンと不活化ワクチンの2種類があります。

生ワクチンは弱毒化されたウィルスからできていて投与回数は皮下注で1回です。帯状疱疹発症予防効果は20%から70%程度で高齢になるほど効果は低下してしまいます。持続期間は5年程度です。しかし、帯状疱疹を発症してしまっても軽症で済むと思われれます。妊婦や免疫異常のある人、免疫抑制剤の治療を行っている人は接種できません。

不活化ワクチンはウィルスを構成する蛋白の一部からできていて、投与回数は筋肉注射で2～6か月間隔で2回です。帯状疱疹発症予防効果は90%以上で持続期間は10年以上です。接種部の痛み、腫れ、発熱、倦怠感、頭痛などの副反応の出現頻度が生ワクチンに比べ高くなります。

価格も不活化ワクチンのほうが高額になります。それぞれ長所、短所がありますので医師と相談してください。

横須賀市ではR7年4月から65歳以上の方は定期接種が始まり、一部金額の助成が受けられるようになっています。

#### 「帯状疱疹はうつる？」

帯状疱疹から帯状疱疹にうつることはありません。しかし、帯状疱疹から水痘（水ぼうそう）に感染していない人には水痘としてうつることがあります。そのため水痘の予防接種が終了してない子供との接触などには注意が必要です。

# 横須賀市救急医療センター



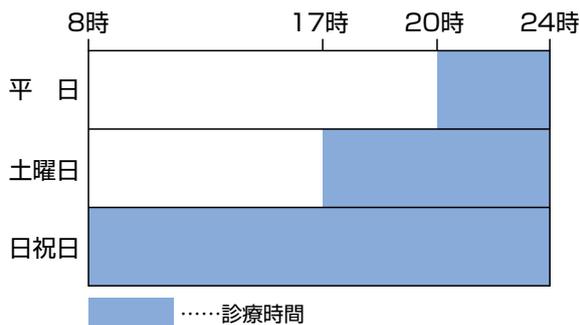
診療科目 内科・小児科・外科

〒238-0005 横須賀市新港町1-11

☎824-3001

横須賀市救急医療センターは、横須賀市医師会が管理・運営をしております。  
横須賀市医師会では、市民の皆様安心していただける  
質の高い医療を提供しております。

## 診療時間



年末年始 12月29日16時～  
1月4日8時まで24時間診療

## 案内図



横須賀市医師会は、市民の皆様により良い医療を提供できるよう

これからも努力していくつもりでありますので、

よろしくご支援をお願いいたします。

詳しいことは横須賀市医師会ホームページ

<http://www.yokosukashi-med.or.jp>

にアクセスしていただきますようお願いいたします。

横須賀市医師会  
モバイルサイト



<http://yokosukashi-med.or.jp/mobile/>

一般社団法人 横須賀市医師会

〒238-0005 横須賀市新港町1-11 TEL 046-822-0542 FAX 046-823-4534